

グループによる共同作業で酪農事業改善！

■ 実施団体：

一般社団法人 とかち地域活性化支援機構

■ 対象国・地域：

ジョージア国クヴェモ・カルトリ州
ボルニシ市 ディスヴェリ村

■ 現地カウンターパート

クヴェモ・カルトリ州 ボルニシ市
ディスヴェリ村酪農グループ関係者

■ 協力内容：

- ・対象農家への飼養管理技術（放牧、栄養、搾乳）指導
- ・グループによる酪農の課題解決を促進するセミナーや課題検討会の実施。

■ 団体のこれまでの取り組み：

- ・1975年設立の地域の経営者団体である北海道中小企業家同好会とかち支部の国際協力事業や十勝地域の食産業の振興事業を引き継いだ形で2018年に設立。
- ・「食」を柱として北海道十勝地域の産業の活性化を図る事業の実施や、産官学や異業種間などの橋渡し役として地域全体の協力体制強化や新たなネットワークづくりを支援。

■ 事業実施の背景・課題：

- ・技術普及員制度がなく、基本的な酪農技術知識が不足
- ・生乳は村人が経営する小規模チーズ工場等に販売されているが、乳質や乳量が安定しないことから、卸売り価格が不安定



酪農技術指導



酪農家と牛

ジョージアの課題と成果

課題①

基礎的な酪農技術知識が不足（訪問酪農家のすべてが技術指導を受けた経験がなかった）

成果①

技術指導や33通にわたる指導教材の作成・配布によって、多くの酪農家が、去年の同時期に比べ搾乳量が増えたこと、牛の体重が30%ほど増えたことを報告

課題②

グループによる課題解決が行われていない

成果②

対象地域でグループによる活動の自立化と継続を表明



セミナー受講風景

事業の波及効果



グループ共同出資で水槽設立！

- ・（Before）対象地域は歴史的背景もあり、グループによる共同作業はほとんど行われることがなかった。
- ・（After）共同での事業の重要性を多くの酪農家が理解し、共同出資によって牛用の水槽を設置。給水バルブの開閉（運営）は村民が交代で実施。牛の肉付きや乳量も大幅な改善にもつながっている。